

育てる目 育つ芽

両親と祖父母が、子供に身につけさせたい道徳的な資質は「ほとんど一緒」が、意識調査の結果です。調査ではまた、学校教育に望むこととして「善悪の判断や区別をつけてほしい」「道徳教育の推進」などがあげられ、うるおいとけじめ失われつつある社会に対して何らかの形で道徳教育の推進を望み、子供たちを健やかに育てていきたいという気持が、両親、祖父母には強いようです。

茨城県小学校・道徳教育の実践指導研究 ③

両親、祖父母が求める児童像は一緒



茨城県地区運動会から

このアンケート調査は、道徳が家族の人たちの意識にも大きなかわりがあることから全校児童の父、母、祖父、祖母を対象に実施したもので、九二%の回答率を得たものです。

調査は「身につけさせたい資質」や「将来どんな性格の子供に育ってほしいか」「学校で特に指導してほしいこと」を、選択と自由意見を記述する方法で回答してもらっています。

身につけさせたい資質の調査では、質問を基本的な生活習慣や心情、態度などの五項目に分け、それぞれの項目で父兄が「比重をお

く」と答えた資質をまとめると、右のようになります。

全体的には各項目の中で、父、母、祖父、祖母が共に第一位にあげているのは、基本的な生活習慣項目の「整理、物、金銭活用」と「家庭愛・人間愛項目の「家族愛」の二つです。また、他の項目でも順位は異なりますが、ほぼ同じものを選んでいきます。

たとえば、心情・判断項目での「不とう不屈」は、父、母が第一位ですが、祖父は第三位(四二%)、祖母は第二位(六四%)といったようにです。

このことから父、母、祖父、祖母が子供たちに身につけさせたい資質は、ほとんど大きな違いはないようです。

父兄が望む児童像 (記述方式・回答率64%) 1人

人に好かれ信頼される子	38人
明るく素直な子	26人
思いやりのある子	26人
父母や祖父母を敬う子	17人
善悪の判断や区別ができる子	15人
人に迷惑をかけない子	12人
家庭を大事にする子	11人
自分のめあてに向かって努力する子	11人
健康と安全に気をつける子	11人
自主的・自律的な子	10人

「家族愛を大切に が八割以上」

次に、各項目ごとに詳しくみてみると、基本的な生活習慣では「整理整頓のよくて、健康で礼儀正しい子供」を望んでいます。道徳的心情、判断では父、母は「自分の正しいところに従って行動する子」を。祖父、祖母は「明るく誠実な子」を第一位にあげ、「明るくて誠実な自分の正しいところに従って行動し、正義感の強い勇気のある子供」を望んでいます。

次に記述方式で、自分の子供、孫に将来どんな人間になってもほしいかを答えてもらいました。

人に好かれ、信頼される子供を望む

その結果、父、母、祖父、祖母の合計で最も高かったのは、「人に好かれ、信頼される子」です。第二位は「明るく素直な子」。続いて「思いやりのある子」「父母や祖父母を敬う子」「善悪の判断や区別ができる子」「人に迷惑をかけない子」となっています。

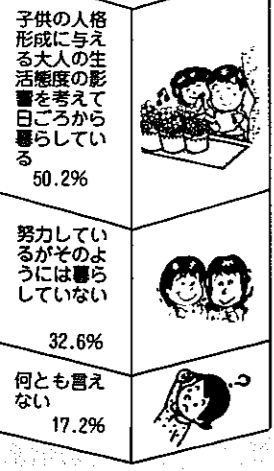
「人に好かれ、信頼される子」で、高い順位にあげているのは祖母と母で、特に祖母は五〇%以上がこの回答をしています。第二位の「明るく素直」と第三位の「思いやり」は父、母、祖父祖母により若干順位が異なりますが、それぞれ上位にランクされています。特に父は「思いやり」をトップにあげています。

また、「父母や祖父母を敬う」では、父と祖母がこの価値を上位にあげ、現在失われつつあるものへの警鐘とも受け止められる回答をしているのが印象的です。

子供の養育—全国の親たちは



大人の生活態度



自信のない親も四割近く

これは八四・〇%の大人が「そう思う」と考え、「大人の生活態度が子供の人格を形づくる上で大きな影響を与える」という意見にも九〇・%の人が肯定しています。

青少年の人格形成に果たす家庭の役割は極めて大きく、親は子供の成長に応じてさまざまなことを教えていく必要がありますが、ここでは、子供の養育に対しての親の意識について、総理府の「家庭

教育に関する世論調査」(五十五年)から拾ってみました。

「青少年を健全に育成するためには、幼いころのしつけや家庭の教育が最も大切」という意見につ

いては八四・〇%の大人が「そう思う」と考え、

「大人の生活態度が子供の人格を形づくる上で大きな影響を与える」という意見にも九〇・

%の人が肯定しています。

このように、青少年の健全育成に果たす家庭における養育・教育の重要性については、大多数の人が認識しているものの、実際にはどうかという点、「影響を考

えて口ごもるから暮らしている」人は半数程度で、約三割の人は「努力しているが、そのようには暮らしていない」と答えています。

また、養育・しつけに対しての親の自信は、「二応の自信を持っていて」人が五七・八%。しかしその一方で、四〇%近くの人が余り自信がないと答え、何らかの不安や悩みを持っています。